

高

朋友

1988



東京電機大学高等学校同窓会

《表紙について》

表題の「朋友」は前高等学校吉田宇一校長の直筆によるもので、同窓会幹事会において鷺見篤氏よりご提言いただいたものです。「朋友」は仲のよい友達とか友人という意味を持ち、英語での「FOR YOU」……（会員皆様方のための）という意味を持たせております。

又、表紙の「若者の像」は故河部貞夫先生（昭和62年9月逝去）の作で、学園創立60周年記念と合わせ、同窓会で募金したレリーフ基金及び学園、生徒会の援助により製作されたもので、小石川校舎玄関口右手におかれています。

高等学校長就任にあたって

東京電機大学高等学校校長 宮崎 登
東京電機大学高等学校同窓会名誉会長



卒業生の皆様には、ご健勝にて、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は、母校の発展のためご支援、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、この4月より高等学校長の重責を仰せつかることになり、その職責の重さを痛感しているところでございます。

昭和14年、東京電機工業学校を創設以来49年目になり、この間、歴代校長の残された偉業の後を継いで、果たして光輝ある本校の発展を、更に伸長させ得るや否や、ひそかに危惧しているところでございます。微力ながら誠心誠意努力致す所存でございますので、何卒、卒業生の皆様の一層のご支援とご協力を賜りますようお願い致します。

最近の教育事情は臨教審の答申にも見られるように、大分様相が違ってきております。顧みますと、私立学校が戦後の復興期、それに続く生徒急増期と、苦難の時代を乗り切り、時代を先取りしての先導的取り組みによって、種々の実績を挙げてきていることは、昨今の私立学校に対する社会的評価の高まりであり、その証左であります。しかし、もう既に進行している小・中学校の生徒数減少、臨教審によるドラスティックな教育改革等深刻な問題に取り組む時期に入っております。

今後の高等学校教育のあるべき姿を摸索することは、至難の業であります。現行の教育制度は、戦後40年を経過し、現在の学校教育の対象となっている生徒は、社会人として活躍する時代は21世紀であり、これらの若人に必要な能力をよく見極め、今後の教育の出発点としなければならないと思います。

時代は、情報化・国際化更に成熟化へと新たな社会状況が生まれ、国民の価値観の多様化が進んでおります。時代の推移に対応して高校教育は、それぞれの特色を生かした教育活動に、一段と弾みをつけなければならない訳であります。このた

めには、教育内容の充実とそれに相応しい教育環境を整備することが急務であります。しかし、実情はかなり厳しい状況にあります。教育が本来、安定的・継続的なものである意味から、学園の運営する各校との協調を図りながら、着実に漸進的な改善をしつつ、新しい時代で活躍する若人を人間性豊かな、逞しい学力を身に付ける育成をしまいたいと思います。

良い学校づくりの最も大切な点は、父母（生徒）卒業生の皆様、学校の三者が心を合わせることにあると信じております。

昭和35年に設立された高校同窓会は、年々活発な活動を続け充実発展され、本校の教育推進のために、ご支援、ご協力をいただき、着実な発展を遂げてきたことに感謝の意を表します。

卒業生の皆様と学校が連携をもち、相互に学び合うことは、学校が社会との密接な連携を持つことであり、21世紀に向けての教育には不可欠な要因であります。卒業生の皆様と学校が真の交流を図ってこそ、更に飛躍の発展を期するものと信じております。

これまでに寄せられた本校へのご支援、ご協力を更に深めていただきまして、教育の成果を一段と向上させることが出来ますようお願い申し上げます。

所懐の一端を申し上げまして、就任のご挨拶といたします。

◆◆◆ 目 次 ◆◆◆

高等学校長就任にあたって	1
母校を初めとする同窓会の近況	2
校長退任にあたって	3
校長先生探訪記	4
第1回「優秀賞」（電高祭）	8
卒業生招待会（第2回）	9
洋上セミナー体験記	10
〔名簿〕歴代教員	12
現教職員	14
同窓会会則及び組織図	16
クラス委員名簿	17
同窓会の活動報告	28
クラス会お祝金について	30
名簿の整備・校友会案内	31
後援会活動	32

母校を初めとする同窓会の近況

東京電機大学高等学校同窓会会長 印 宮 登

☆はじめに

同窓会員である卒業生の皆様、特別会員である教職員の皆様には、日頃のご支援・ご協力を深謝申し上げます。昨年の同窓会活動や今年度の計画などを記述して、同窓会会長挨拶にかえさせて戴きます。

☆名誉会長が代られたこと

同窓会では、高等学校長を名誉会長としてご推薦申し上げておりますが、この3月吉田校長がご退任され、新しく宮崎教頭が校長にご就任されたのに伴い、名誉会長のご交代がありました。

吉田先生には、昭和53年4月よりこの3月迄10年の長きに亘り、名誉会長をお引き受け戴くとともに、同窓会をご指導戴いた訳で、この10年で当会も飛躍的に発展致しました。小石川校地隣接の都有地払下げ署名運動、払下げを受けた土地を校庭として整備する為の募金活動、高等学校創立40周年記念式典（その一環として開催された記念講演はその後形をかえ在校生を対象とした文化講演会へと引き継がれた）、在校生のクラブ活動を援助する目的の後援会の設立、昭和61年より開始された卒業生招待会などの活動ができたのも、吉田先生のご指導・ご援助によるものと深く感謝致しております。

また新たにご就任された宮崎校長、松岡教頭の両先生には以前より同窓会にご尽力戴いておりますが、これを機会に尚一層のご指導・ご鞭撻を戴きますよう、厚かましくもお願い申し上げます。

☆電高祭展示作品の表彰

昨年の同窓会活動のなかで特筆すべきものとして、電高祭優秀展示作品表彰があげられます。準会員（同窓会では在校生のことをこう呼ぶ）に同窓会のことを理解してもらおう手段として、卒業直前における新会員説明会や年一回同窓会誌「朋友」の配布を行っているが、今一つ理解が深められていない。そこで62年度の活動方針として準会員活動奨励という事業項目を設け、手始めとして電高祭展示作品の内優秀な作品について表彰を



行なうこととした。第1回目ということで、学校におられる卒業生教職員の方々に審査をお願いし、優秀賞に科学同好会、奨励賞として写真・物理・無線・鉄道・考古学・電気科高電圧担当・電子科製作担当・電子機械科義手担当の各部門を選出して戴き、11月4日の朝礼時に副賞を添えて表彰した。

☆卒業生招待会

昨年が第2回となった卒業生招待会は11月14日、後楽園会館にて開催されました。昭和31年～40年の卒業生にご案内したところ161名のご参加を戴き盛大に執り行われた。今年は昭和41年～50年の卒業生を対象として開催する予定であり、該当される卒業生には個別にご案内申し上げますが、皆様のお近くに該当される方が居られましたら、一声お声をかけて戴きたく存じます。

☆高等学校卒業生名簿

高等学校卒業生名簿は、前回昭和57年版を発行して5年以上が経過する。校友会では念願であった電機学校卒業生名簿を62年3月に発行、続いて大学卒業生名簿を11月に発行した。今年度は高等学校卒業生名簿を発行することが校友会事業として決定された。この「朋友」が皆様のお手元に届く前に、名簿調査票のご協力をお願いしていると思いますが、正確なる名簿を期する為、全員のご回答をお願い致します。またクラス委員の皆様には、一人でも多数の級友の情報を、お寄せ戴ければ幸甚に存じます。

校長退任にあたって

前東京電機大学高等学校校長 吉 田 宇 一

吉田宇一先生の業績紹介（編集部）



1. 専門分野	電気工学			
2. 学校法人東京電機大学における業績				
	東京電機大学高等学校 教頭	昭和49年	4月～53年	3月
	東京電機大学高等学校 校長	昭和53年	4月～63年	3月
	(学)東京電機大学 理事	昭和53年	5月～63年	3月
	東京電機大学電機学校 校長(兼務)	昭和56年	4月～62年	3月
3. 学外における業績				
	東京私立中学高等学校協会 理事	昭和53年	4月～55年	3月
	東京都工業高等学校電気教育研究会 副会長	昭和53年	4月～63年	3月
	私学研修福祉会在校研修等 審査委員	昭和55年	4月～59年	3月
	(社)全国工業高等学校長協会 理事	昭和56年	4月～63年	3月
	関東地区電気教育研究会 理事	昭和55年	4月～63年	3月
	東京私立中学高等学校協会			
	私学教育研究所工業科研究会 会長	昭和57年	4月～63年	3月
	規程検討特別委員会 委員長	昭和59年	4月～61年	3月
	全国私立工業高等学校長会 会長	昭和61年	9月～63年	6月

長かったようでもあり、短かったようにも思える10年が過ぎました。時は過ぎゆく、まさにその感であります。

今は、10年間肩にくだり込んでいた重荷をおろして、フーッと一息ついた感じであります。

同窓会の皆様、本当にお世話になりました。ご協力、ご声援いただきまして、大過なく10年が過ぎましたことに心から感謝申し上げます。

退任後一ヶ月たって、ジワジワと様々な体験が浮かんできますが、紙面の都合もありますので、その中から私が経験した楽しかったこと、苦しかったことの中で、特に思い出される二つのことにふれたいと思います。

第一にあげられるのは、高校創立40周年であります。同窓会の皆様のこのための活動は、私が校長就任の年から本格的になりました。記念式典は翌54年6月でありましたが、この一年間は何回となく委員の方々が学校に集まって式典や記念行事の内容についてご相談下さいました。

同窓会、PTA夫々の役員の皆様や、教職員のなみなみならぬご尽力によりまして、式典も記念事業も見事に成功しました。

しかし、それまでの1年間はびくびくものでした。果たして恥ずかしくない式典ができるのか、教職員の協力が得られるのか、参加してくださる人たちがどの位いるのだろうか。委員の方々の中にも心配される方々もたくさんおられました。それだけに記念式典が成功した感激はひとしおでし

た。就任早々この記念すべき節目にめぐりあったことを非常に幸に思っています。同窓会の皆様とのむすびつきが非常に強固になったこと、平岩弓枝女史の記念講演をきっかけに文化講演会が続けられるようになったことであります。

もう一つは、苦しかった思い出といえるかもしれませんが、これは同窓会とは直接かかわりのないことであります。

昭和54年度は輪番制で本校が第4支部長校になりました。この年までは私学に子弟を学ばせる父母の学費負担軽減の目的で、ご父母に直接その筋の補助が出ておりました。翌年からその補助金が、父母にではなく学校に入るようになる、学校はその分に相当する授業料を減額しなさいというような指示が出た年でありました。協会の理事会等もいつもの年より度々開かれたり、第4支部傘下の各私学のPTA役員の方々の合同会議を開いたり、支部会も度々開きましたが、賛否がなかなかまとまらなかったことを思い出します。ようやく解決を見たわけですが、この年のPTA会長亀井邦夫氏には全般的な立場で随分ご苦勞をかけたわけです。

そのほか思い出は尽きませんが、同窓会の皆様、種々の角度から学校にご協力いただき、在校生を励ましてくれたことに深く感謝申し上げます。今後ともますます発展され、同窓会と、在校生（父母）と、学校の三本柱が永遠に安泰であることを祈念いたします。

初代校長就任秘話

池谷武雄



昭和23年、一工と二工とが合併して電機学園高等学校となり初代校長に池谷が就任した。当時の一工校長は橋本健之助（英語担当）、二工校長は池谷武雄（機械工学担当）であった。その後、校名は東京電機大学高等学校となった。これは学園年史にもあり特に変わったことではない。しかし物ごとには裏通りというものがある。ここにも知られざる裏面史があったと勘ぐる人がいてもおかしくない。初代校長を一枚から出すか二枚から出すかという派閥による紛争は無かったか。学園は一つでも学校は二つあって校長が二人居れば校風も自ら違おうし、教職員にしても自校の肩を持つのは当然である。当時の一工の先生は教育的、紳士的に対し二工の先生は活発でヤンチャ者（失礼！）が多かった。一工で賑やかに文化祭をやれば二工では野球チームを作って他校試合をする。私は応援歌の作詞作曲をして生徒に歌わせて氣勢を挙げた。攻玉社中学との試合では応援団同志が喧嘩になり攻玉社から奪い取った帽子をもって後日挨拶に行つて帽子を返したこともある。こんな調子だから校長人事がもめて混乱にでもなったら学園の社会的信頼も落ちるし、卒業生にも申し訳がない。だからもし仮に私が初代校長となったら先ず第一の仕事は、両校の先生方を如何にして融和協調させるかである。こんなことを気にしながら校長人事の行方を見守っていた。理事会でもいろいろ配慮に配慮を重ねた結果が前記のようになった。私のような者は校長になるような器ではないとも考へたが、私を支持する二工の先生方も居られることだから理事会の決定に従って引き受けた。

これからは何としても難関を乗り越えて円満に校務を遂行しなくてはならない。内心は不安で一ぱいであった。ところが実際になってみたら、私の危惧の念は全くの杞憂にすぎなかった。

校長人事も平穩無事に進み、校務の遂行も極めて順調に運んだ。これというのも思えば故人となられた橋本先生の謙虚な人柄と教職員の良識ある行動との結果である。これで学園高校は盤石の基礎の上に立って順調に走り出した。私は誠に恵まれたと諸先生に唯々敬意を表して感謝するばかりであった。

話は変わるが昭和31年の秋に修学旅行に付き添って関西に行った時は生徒の無事を祈念して旅行中は禁煙を守り通した。東京駅で全員無事を見とどけてホッとして一服したことは今だに忘れられない。あれからもう32年、私も年をとりましたがお陰様で元気でおります。皆様のご健康を祈ります。

◇家庭での先生はいかがですか？（奥様より）

近ごろは余ほど良くなりましたが、昔の主人は少し気の向かないことがあると直ぐに顔色を変えるのです。こんなことでは校長など勤まるものではないと内心では非常に心配しました。もっと大らかな気持ちでないと人にも愛されません。主人は今年1月24日の誕生日で満90歳になりましたが、中学三年の時から今日まで毎朝の冷水摩擦を欠かしたことがありません。主人が健康なので私も助かり心からよるこんでおります。



池谷先生おぼえていますか？

丸山孝一郎
(昭和22年3月 第二工業卒業)



先生から教わった水力学の講義も、会社へ入って拾数年、全国の発電所へ出張の折りに役にたったのもかなり昔の物語りとなり、失礼ながら今は殆ど忘れてしまった。

しかしまだに忘れない先生から聞いた人生訓話がある。

人間の生きる知恵を結集した金言、名句などをよく読むと、例えば「早起きは三文の得」と働くことの大事なことを云っている反面「果報は寝て待て」とある。また「虎穴に入らずんば虎児を得ず」と危険を覚悟で挑戦すべきだという反面「君子危きに近よらず」とある。このように人間の歩むべき道の指針を両面から表していることが実に多い。このことはどちらが人生を歩むうえでだいじなことであるというのではなく、我々がその場、その時にどちらを選択するか、という決断力、判断力を常日頃から学問の上で、又生活の中で養うことが大切なのだという意味のことを話されたことである。

池谷先生は偉い先生である。何しろ二工の校長先生である。その上水力発電の授業も担当された。敗戦当時、教員のほとんどは野暮なイガ栗頭に軍服姿であったが、池谷先生は違っていた。髪をちゃんと伸ばし、紺色の背広をきちんときておられた。その英国紳士然とした態度に、イタズラ盛りの生徒もアダ名一つつけられず流石校長と感心したものだ。間もなく校舎の横に池谷先生待望の水力発電実験室が完成し、揚水ポンプの音も高らかにタービンが回り始めた。この頃としては画期的と云えば、高等小学校卒を入学資格とする三年制の二工の発足は、現在の高校教育を先取りしたものとして日本最初のユニークな学校であった。池谷校長を始め諸先生もユニークなら生徒達も一人一人甚だ個性的であった。当時の悪童連もサラリーマンならそろそろ定年を迎える年頃になった。今更乍ら池谷先生の末長きご健勝を願うのみである。

片岡政義
(昭和23年3月 第二工業卒業)



松下祐輔
(昭和34年3月 高等学校卒業)



先生には直接教科を教えて頂いたことはありませんでしたが、在学中は機会あるごとに校長先生として、外国へ出張されたときに感じたことなどを、よくお話し下さったことを覚えています。卒業後は同窓会や校友会の会合でお目にかかる程度でしたが、昭和57年の暮れに、ある会社の忘年会に招かれて行った際、たまたま隣席でしたのがきっかけで、翌年の同窓会総会で、先生の趣味である絵についての講演と絵の展示をして頂くことになり、総会当日には先生を慕う多くの卒業生が集まり、先生を囲んで楽しいひとときを過ごしたことを覚えておられる方も多いと思いますが、その後も先生は元気で、お会いするたびに、あたたかい声をかけてもらっています。米寿のお祝いするとき、先生は今度は100歳のとき盛大にいわってくれと言われました。先生どうか健康に気をつけて長生きして下さい。そうして約束どおり盛大に100歳の誕生祝いをやりましょう。

お弁当・教育目標・定時制 望月先生直文

★新入生と一緒に教室でお弁当を食べたこと。

高校生の適齢人口が激減する時代に電機学園は如何なる対策をすべきか？理事会であったが、結局は私に高校長を兼ねて学園が安泰であるようにするより外に道はない。特に瀬藤理事長の強い発言があった。私は高校は大学の無試験推薦の枠を拡げるより他に道はない。無論無試験推薦に値する立派な教育をやりますから私がこうしてもらいたいと言えばそれを大学ではその通りにしてもらいたいと述べたら承知してくれた。当時私は昭和27年1月10日付で東京都より校長一級普通免許状を受領して居た。教育は校長と生徒の意志の疎通が一番大切である。生徒と校長と一緒に考えることである。その意味で何日は何年何組の生徒と教室で昼食をしながら意志の疎通をはかったのがあった。私はこれが教育の基本であると信じていたのであった。



望月先生直文

★教育目標を定めたこと。

電大高校生に具体的に端的に本校の教育の目標を示す必要があった。その理由は余り長いとすぐ忘れてしまうからである。

<教育目標>

- 正義を愛する強い意志
- 真理を愛する高い知性
- 自発的な人間尊重の精神
- すこやかな健康
- 勤労と責任を重んずる誠実な人格



★定時制を閉校にしたこと。

私が校長時代定時制は特に生徒数が激減し、遂に来る生徒が無になり、しばらく募集停止をして様子を見ていたが、見込みはないので残念ながら定時制を閉校にせざるを得なかった。これは電機学園が私立だからやむを得ない措置であったと思っている。

◇家庭での先生はいかがですか？（奥様より）

兎に角堅いと言ったら石より堅い人です。自分で決めた事はとことん守ります。そのかわり人もそうしないと気に入らないようです。外出するときも帰る時間を言っておきますが必ずその時間に帰ってきます。日課は朝は休むことなく近くの神社へラジオ体操に行きますし、午後は散歩に出ます。あとの時間は短歌の勉強に余念がありません。テレビは自分でつけて見るということはいたしません。身体には充分気をつけて長寿を心掛けております。



望月先生おぼえていますか？

見崎正行
(昭和35年3月 高等学校卒業・
現高等学校教諭)



私が奉職して2年後の学校長に望月先生が就任されました。学校の様子もあまり解らない時でありましたが、今振り返りますと、本当に厳しい時代の校長であったと思います。生徒激減期を迎え、高校の将来について多くの苦勞が重なったのではないかと思います。その一つにまず電機大学への推薦枠の拡大が一番大きかったことで、これが高校のレベルアップにもなったと思います。また高校から大学教員への移動もありましたが、これは1度だけで、継続されなかったことは残念な気がします。さらに生徒と教室で昼食会を実行し、生徒の声を聞くなどいろいろ工夫されましたことが浮かびます。ある時、同期の先生と校長室へ行き、待遇の改善をお願いしたところ、「もっと大局的に考えているのだから君達も我慢してほしい」といわれたことが思い出されます。

電大高校の卒業式が、文京公会堂で行われている頃、望月先生が、校長として就任して来られました。

「あけの鐘平和を讃う、茜に映ゆる富士のごと」

学生歌の原稿を持って来られたのは、翌年の春だったでしょうか。先生の情熱が溢れるかの様に、書かれておりました。全校生徒が唄う歌なので、たやすく歌えなくてはと、短調を選びました。次の朝礼の時、全校生で練習をし大声で歌った事を、今でも嬉しく思い出されます。あれから何年になりますか。望月先生の平和への願い、自由、情熱、共に何時迄も高校生の唄う歌であります様。

先生の御健勝を、祈りつつ、思い出の一端を書かせて頂きました。

持丸 栄
(現高等学校教諭)



電大高校生の歌

望月直文 作詞
持丸 栄 作曲

- 一、あけの鐘 平和を讃う
茜に映ゆる 富士のごと
けだかく清く ゆるぎなく
理想は簞ゆ
ああ世紀の地に 究めん科学の道
胸は鳴る
我が母校 電大高校
- 二、かがやける 自由に満てり
真理を探る 使徒のごと
儘まず倦まず 創意もて
若人はゆく
ああ文化の地に 拓かん明日の幸
光あれ
我等が母校 電大高校
- 三、人の子の 情は溢る
萌えたつ春 花のごと
歓喜はてなく もろともに
我等はうたう
ああ母なる地に 抱かん心の友
栄あれ
我等が母校 電大高校

第1回「優秀賞」(電高祭)

高校同窓会から準会員の方々へ何か還元できないものかと思案していたところ、電高祭における優秀展示作品に対して表彰(副賞・図書券)し称えることとなり、今回が初めてのこととなりました。審査報告を当時の生活指導部長加藤栄治先生に、受賞の喜びを同好会部長にお願いしました。

〔審査報告〕

審査委員長 加藤 栄治

同窓会よりこの第25回電高祭から優れた部門を表彰したいとの話があり、誠に有り難いことです。学校では部活動や、各種資格取得など学習面以外の活動を大いに奨励しその結果を褒め称えてまいりましたが、電高祭は生徒の自主活動の中で最大規模であったがために賞の対象が難しく、これまで表彰できなかったのではないかと思います。今回、同窓会のご好意に感謝して表彰を行うことにしたものの、審査方法、審査員の構成等は全て学校側に委ねたいとのことで最初から難儀でした。そこで同窓会副幹事長の電子科見崎先生と相談し、初めてのことで、とりあえず今回は次のように進めようということにした次第です。

○審査委員：本校同窓の教員12名

○審査方法：アトラクション部門は日替り出演なので時間的に審査は難しく、対象は展示部門のみにする。教室展示21部門、工業各科は各実験室の小部門12で、合計33部門が審査対象、審査は所定用紙の投票(1人2部門に○印)で行う。

◎審査結果は次の通り

得票上位9部門を選び最高得点部門を優秀賞に、他を奨励賞とすることにした。

〔優秀賞〕 科学同好会

〔奨励賞〕 写真部 電気科 高圧部門

物理同好会 電子科 制作部門

無線部 電子機械科 人口義手部門

鉄道研究部

考古学部

〔優秀賞受賞 科学同好会〕

部長 西野 英一 (3E₂)

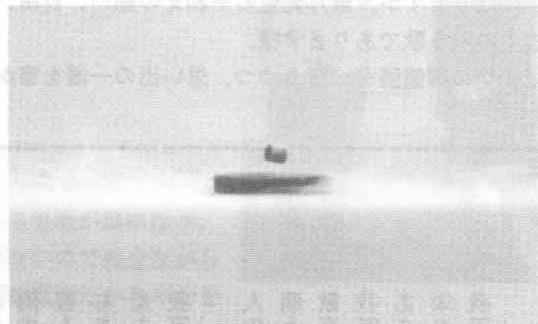
今回、優秀賞を頂いた科学同好会です。会員の人数は12名です。

日頃の活動内容は、合成繊維などを作る化学実験や、光・音のセンサーを使った電子工作などを行っています。

化学の実験では、簡単なものから難しいものまで行い、実験に対しての技術と考察の向上を目標としながら行っています。また、電高祭の準備としては、電子工作の製作を行い、七宝焼の釉薬を製造したり、展示品の資料を収集して、なるべく、失敗しないように、会員で話し合いました。

電高祭においての苦労した点は、演示実験などを何回も行う予定でしたが、薬品が少ししか準備できなかったため、回数を思うように増やせなかったことです。

そして、もう一点は超電導の実演のことで、昨年からはじめていたので、電高祭で実演するまでに資料



《実験中の超電導物質マイスナー効果》

がなかなか集まらず、説明が不十分になってしまいました。

超電導の実演は、ほとんどの方が見られるのが初めてらしく、真剣に説明を聞いて下さる方が沢山居ました。

実験に必要な液体窒素は、電大工学部の低温実験室より戴けたので幸いでした。

今後の活動としては、超電導物質を電気炉で試作し、その特性を測定することと、そして、電子工作の自主製作、会員各自がテーマをもった化学実験などを行いたいと思います。

卒業生招待会 第2回

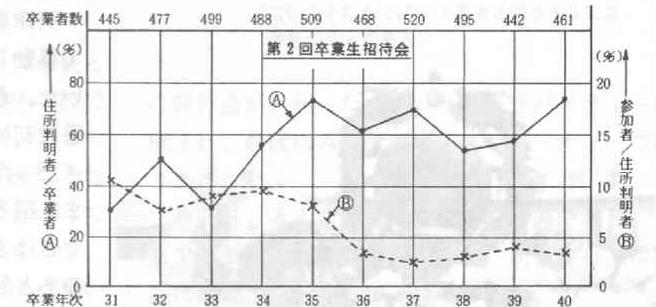
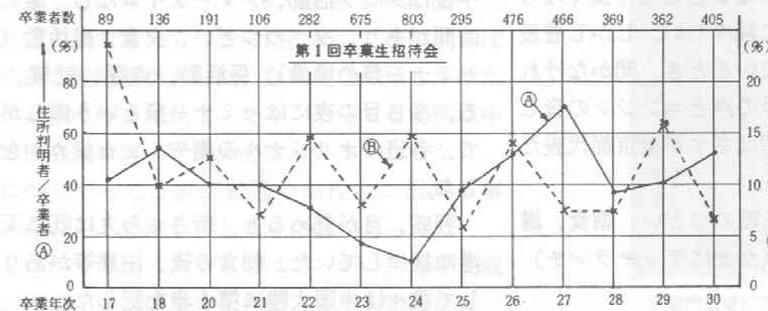
(昭和31年 高等学校卒業) 小長谷 登

第2回卒業生招待会は、62年11月14日(土)、小石川校舎の隣にある後楽園会館において、盛大に行われました。昨年第1回目の好評を得ての2回目であり、期待どおり充実した内容のものでした。同会館の待合室で、久しぶりに逢う友との語りや明るい笑声、ご無沙汰している先生方との回顧談など、会の始まる前から雰囲気は盛り上げられていました。先生方の中には定年になられた方もおられましたが、万難を排して多数参加され、会の盛り上がり一役買っていただきました。アルコールの力も加わって壇上でのアドリブの挨拶や合唱、旧校長の名物挨拶などなど、若かりし昔を彷彿させ、楽しい一日でした。31年から40年卒という、卒業してから22年以上、年齢にして40才以上、多忙で働き盛りの卒業生諸氏の多くの顔を見て、これからの高校の益々の発展に寄与されるものと、頼もしく思った次第です。この会の継続を願い、我が電大高の益々の発展を招待者の一人として祈ると共に、こ



の会を実行して下さった、吉田前校長を始めとした諸先生方、印宮同窓会会長や幹事諸氏、校友会の方々にお礼を申し上げます。有難うございました。

招待会の参加状況 (編集部)



卒業生招待会も2回目をおわりましたので、参加者数などから一つのイメージが浮かばないかと、乱暴な作り方ですが強引にグラフ化しました。住所が判明している人には招待会の開催通知が送られていることから、卒業生数・住所判明者数

・参加者数の比率を用いましたが、住所が判明している率が高い卒業年が出席者数が多いのは当然と考えられますが、昭和36年以降は少し様子が異なり、この年代の方々の生活がうかがわれるように思うのです。考えすぎでしょうか。

洋上セミナー 体験記

(昨年高等学校在学中に東京都青少年洋上セミナーに参加し、高校生として貴重な体験をした永木康弘さんに、その思い出をつづってもらいました。)

(昭和63年3月 高等学校卒業) 永木 康弘

洋上セミナーとは、正式には東京都青少年洋上セミナーといい、東京都在住、在学の高校生を募り、隣国中華人民共和国の訪問を柱に、政治のあり方や、国際的交流の重要性等高校生としての視野を広めさせようというものである。高校生(団員)達は船上で、また中国で、日本人を、或は中国人を互に見つめ、親睦を深め合う。僕はあの楽しかった夏の日を、みんなで創った第8回洋上セミナーを、今だに少しも忘れていない。

7月23日正午に出港を終え、我々の乗る新さくら丸は紙テープを残し、東京を離れた。船上でのスケジュールは忙しかったが、団員達も次第に馴れ、新しい生活に、新しい友達に、溶けこんでゆく。ちょっと想像して欲しいのだが、400人の高校生の男女が、みんなまとめて仲良くなっちゃうのである。さすがに騒々しい。しかし普段と違うのは、誰かが話しているとき、聞かなければいけないときは、話し手の声とエンジンの音しか聞こえなくなる。この辺はさすが東京都代表だと思った。

船上での生活は、起床、朝のつどい、朝食、講義で午前を過ごし、昼食(たまにデッキランチ)



天津市水上公園にて
(振り向いているのはボクではなく、友人〇君)



故宮、清の時代の王宮
(広い!もう1時間も歩くというのに
「まだ1/3くらいです」だって……)

午後はクラブ活動、ティータイムなど、楽しめる時間があり、夕べのつどい、夕食、組活動(主にセミナー祭の準備)、係活動、点呼、就寝、である。3日目の夜にはセミナー祭という催しがあって、各班のオリジナルの劇やミュージカルを披露した。

翌朝、目が覚めると、新さくら丸は既に天津新港に接岸していた。朝食の後、注意等があり、そして我々は中国大陸に第1歩を記した。

天津新港から市街までは約30kmもあり、バスで移動している間は一同異国の景色に首を痛めていた。最初に到着したのは天津市水上公園で、一番最初に僕等に歓迎の意を表してくれたのはパンダだった。ガラスのケースなどはなく、自由気ままに振るまっている気がした。然しその可愛いしぐさはさすがに日本にいるのと同じであった。そのあと昼食、また見学、と、船上よりも忙しいくらいのスケジュールであったが、とにかく天津市での第1日目は初めての事ばかりで妙に興奮していた。そして翌日には北京へと発つのである。

北京市はこの洋上セミナーで、最も中国を好きにさせてくれる所である。20万人もの人を集め



天安門広場の中央に立つ毛氏の記念碑
(「人民英雄……」しか読めない)

て集会ができるという天安門広場が最初で、そのスケールの大きさに驚いていたのに、その後に行った故宮の大きさといったら!もう説明を聞きながらとはいえ1時間は歩いているのに、「まだ1/3くらいですよ。」一体大陸って何んなんだろうと本気で考えてしまった。そしてその晩には北京市の招待宴があった。なに気なく話しかけた人が北京市外交局長だったり、やってる場所は中国の国会議事堂(人民大会堂という)だったり、とにかくやってる事が普通の高校生に出来る事じゃない!感激してしまった僕であった。

とにかく中国にあるものはでっかい。万里長城や、明の13人の皇帝を祀りてある定陵など、歴史的に普通でないものが多い。

中国に心底惚れてしまいがちながら北京市で最後ともいうべき日がきた。北京市にある高級中学校での交歓会、工人体育館でのスポーツ交流、ここで作った二人の友達は忘れたくない。別れたくなかった。堅く手を握り合い、「So Long」といって結局は別れの時がきたのだが、きっとまたくる。お前も一度はきてみるよと約束して、バスは動いてしまった。

次の日午前中に少年宮という所を見学したあと、バスはまた天津へ向かい、天津新港から上海へと新さくら丸は出発した。

上海市という所はどこか日本の街を思わせると

ところがある。ここで見学した工人住宅という所(実際人が住んでいる)も、東京の団地みたいな所だったし、大通りに出ると日本橋あたりの風景によく似ている。上を見たら高島屋のマークが見えそうな気がした。夜には上海市の人々を招いて船上パーティーを催した。日本みたいな所だと書いたが、やはり上海の人は中国人で、暖かく僕等と接してくれた。魯迅の墓を見たり、庭園やお寺を見たりしたが、これもやっぱり中国だった。

そして本当に中国とお別れしなければならない日が来た。船は岸から離れ、しばし船室で感傷にふけた。

それからまた忙しい船の生活になった。組別活動はセミナー祭の準備ではなく、最後の報告会と、報告書に載せる為の作文であった。そしてそ



天安門広場にて
(広い!とにかく広い!足もとのタイルには番号がふってある)

の報告会が終わったあと、サヨナラパーティーが催され、最後にみんなでディスコパーティーで盛りあがった。

最終日、みんなの顔は、まるで「運命の日」でも来たかのような顔つきだった。新さくら丸は晴海に着き、楽しかった日は終わった。

同窓会会則及び組織図

第1章 名称及び事務所々在り

- 第1条 本会は東京電機大学高等学校同窓会と称す。
 第2条 本会は事務所を東京都千代田区神田錦町1-4 東京電機大学校友会内に置く。

第2章 目的

- 第3条 本会は会員相互の親睦を図り併せて会員と母校との連繫を密にし東京電機大学校友会の事業遂行に協力するを以て目的とする。

第3章 会員

- 第4条 本会の会員は特別会員、正会員、準会員よりなる。
 2 特別会員は東京電機大学高等学校の教職員及び本会に特に功労あるものにして幹事会の推薦によるもの。
 3 正会員は東京電機大学高等学校、東京電機工業学校、電機第一工業学校、同併設中学校、電機第二工業学校、同併設中学校、電機学園高等学校の卒業生とする。
 4 準会員は東京電機大学高等学校の在學生とする。
 第5条 特別会員、準会員は議決権、選挙権、被選挙権を有しない。

第4章 役員

- 第6条 本会には次の役員を置く。
 一 名誉会長1名
 二 顧問若干名および参与若干名
 三 会長1名、副会長2名、及び幹事25名以上50名以内、会計監査2名
 四 クラス委員を各クラス2名、地域委員を各地域同窓会1名をおくことができる。

—以下略—

第5章 会 合

- 第9条 総会は毎年1回会長はこれを召集し本会の事業経過計画案、幹事及び会計監査の承認、収支決算予算案の報告並びに議決をおこなう。

—以下略—

第6章 会費及び会計

- 第13条 本会に入会するものは入会金1,500円を納入するものとする。
 2 本会の会費は東京電機大学校友会費の納入を以てこれを認める。
 第14条 諸会合に要する経費は、その実費を徴収することができる。
 第15条 会計監査は、本会の会計を監査する。
 第16条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年三月末日に終る。

第7章 会則の改正その他

- 第17条 本会則の改正は総会の議決を要す。

—以下略—

付 則

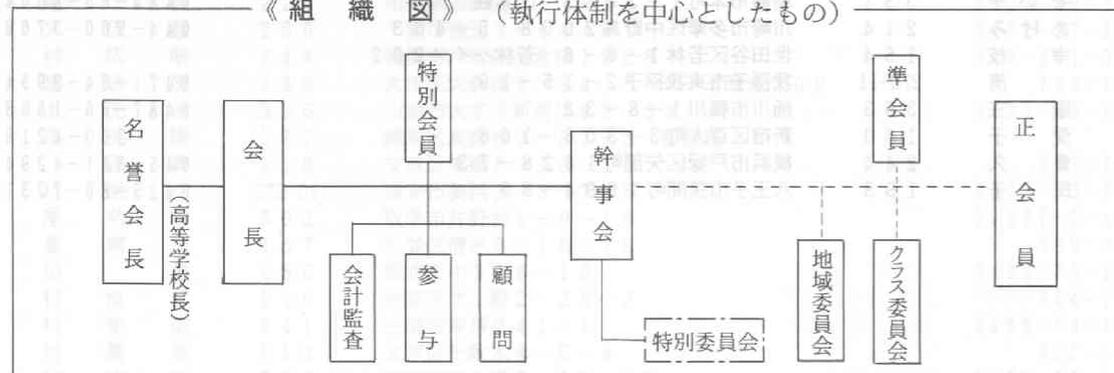
- 1 略
 2 昭和56年6月27日全面改正
 昭和57年6月26日第13条一項一部改正

東京電機大学高等学校同窓会会則細則

- 第1条 名誉会長には東京電機大学高等学校長を推戴する。
 2 顧問は特別会員の中から、参与は会員の中から幹事会にて推薦する。
 3 会長及び副会長は幹事会の互選で定める。

—以下略—

《組織図》（執行体制を中心としたもの）



クラス委員名簿

◎ 学校の沿革

電機第一工業学校 (東京電機工業学校)	設立 昭和14年4月 廃止 昭和24年3月	初 版 昭和49年4月 第1回改訂 昭和50年4月 第2回改訂 昭和51年4月 第3回改訂 昭和52年4月 第4回改訂 昭和53年4月 第5回改訂 昭和55年4月 第6回改訂 昭和56年4月 第7回改訂 昭和58年4月 第8回改訂 昭和59年4月 第9回改訂 昭和60年4月 第10回改訂 昭和61年4月 第11回改訂 昭和62年4月 第12回改訂 昭和63年4月
電機第二工業学校	設立 昭和19年4月 廃止 昭和24年3月	
電機学園高等学校	設立 昭和23年4月	
東京電機大学高等学校	昭和31年2月1日 校名変更	

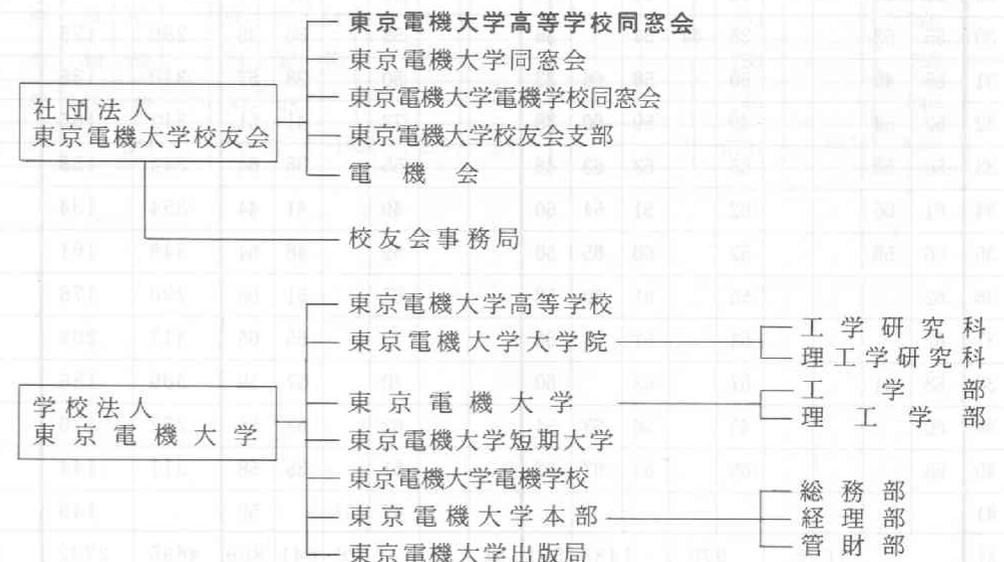
◎ 東京電機大学高等学校同窓会

設 立 昭和35年4月17日
 所在地 〒101 東京都千代田区神田錦町1-4
 ☎ 03-294-1551 (代)
 社団法人 東京電機大学校友会

◎ 東京電機大学高等学校

所在地 〒112 東京都文京区後楽1-7-26
 ☎ 03-813-6911 (代)

◎ 校友会・学校の組織



学校・学科・年次別卒業生数一覧

卒業年次	電機第一工業学校				電機第二工業学校				小計		合計
	第1本科		第2本科	併設	第1本科		第2本科	併設	電機第一工業学校	電機第二工業学校	
	電気科	機械科	電気科	中学	電気科	機械科	機械科	中学			
	E	M	E	J	E	M	M	J			
17			89					89		89	
18	51		85					136		136	
19											
20	100		91					191		191	
21	58		48					106		106	
22			100		132	50		100	182	282	
23	53		106	161	78	26	8	243	320	355	675
24	117	26	65	359	190	46		567	236	803	
中計	379	26	584	520	400	122	8	243	1509	773	2282

卒業年次	全日制										定時制				小計		合計					
	電気科										電気科	機械科	電気科									
	電力課程				電気機器課程		電気通信課程		電気計測課程	電力課程			電気機器課程	電気通信課程								
	E ₁	E ₂	E ₃	E ₄	M ₁	M ₂	C ₁	C ₂	I		E	M			E ₁	E ₂		M	C			
24											94	10								104	104	
25	54	52			64		39						42	44						209	86	295
26	48	48	51	49	52		45						49	47	27	60				293	183	476
27	51	50	50		46	43	53						40	46	50	37				293	173	466
28	56	57			51		50						53		38	64				214	155	369
29	50	37			62		55		29				49		41	39				233	129	362
30	55	53			36	44	54		38				55		30	40				280	125	405
31	55	49			59		58	56	33				50		28	57				310	135	445
32	52	54			49		59	60	38				73		41	51				312	165	477
33	56	59			55		63	63	48				55		36	64				344	155	499
34	61	66			62		51	54	60				49		41	44				354	134	488
35	56	59			52		60	65	56				59		48	54				348	161	509
36	62				55		61	60	52				67		51	60				290	178	468
37	62				64		61	64	66				73		65	65				317	203	520
38	58	61			67		63		60				70		57	59				309	186	495
39	60				49		56	53	54				62		53	55				272	170	442
40	65				65		63	67	57				51		35	58				317	144	461
41													47	47		52					146	146
中計	1696				975		1433		591	94	10		1128	641	859					4695	2732	7427

学校・学科・卒業年次別担任・クラス委員一覧

卒業年次	全日制										定時制			小計		合計
	電気科			電子科		機械科		工業計測科	電子機械科	電気科		電子科	全日制	定時制		
	E ₁	E ₂	E ₃	D ₁	D ₂	M ₁	M ₂			E ₁	E ₂				D	
	E ₁	E ₂	E ₃	D ₁	D ₂	M ₁	M ₂	I	M	E ₁	E ₂	D				
41	68	66		69	69	54		62					388		388	
42	54	56	50	64	59	52		56		42	39	47	391	128	519	
43	56	54		58	54	54		55		48	41	37	331	126	457	
44	61	64		67	64	68		56		64		64	380	128	508	
45	61	60		51	55	48	49			47		21	324	68	392	
46	66	63		62	64	55	55			47		20	365	67	432	
47	56	55		58	49	58	59						345		345	
48	50	51		52	52	53	53						311		311	
49	56	57		51	51	52	49						316		316	
50	55	52		61	62	49							279		279	
51	52	50		43	50	48							243		243	
52	59	59		58	56	50							282		282	
53	60	56		59	66	56							297		297	
54	51	55		49	51	52							258		258	
55	50	47		56	55	43							251		251	
56	49	50		49	51	51							250		250	
57	54	54		57	55	48							268		268	
58	50	47		51	54	53							255		255	
59	51	53		54	51	50							259		259	
60	50	50		43	43	50							236		236	
61	54	52		50	53	54							263		263	
62	49	52		54	52	46							253		253	
63	49	49		47	48					53			246		246	
合計	2563			2537		1409		229	53				6791	517	7308	

卒業年次	全 日 制					合 計
	普 通 科					
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅	
27	37					37
28	30					30
29	39					39
30	47					47
31	58					58
32	42					42
33	50					50
34	50					50
35	60	55				115
36	55	54				109
37	55	53				108
38	51	55				106
39	59	56				115
40	63	64	60			187
41	63	64	63	65		255
42	60	63	64	62		249
43	58	56	58	58		230
44	60	53	53	51		217
45	55	57	57	57		226
46	54	54	54	57	54	270
47	49	50	50	49		197
48	54	54	54	53		215
49	52	55	55	48		207
50	51	51	51	51	50	253
51	53	54	54	52	42	254
52	52	53	53	51	52	262
53	52	53	53	52	52	260
54	55	56	56	56	49	271
55	54	55	55	54	50	266
56	47	49	49	49	47	241
57	53	54	54	52	48	258
58	51	51	51	51	52	255
59	51	49	49	50	51	251
60	47	46	46	45	43	227

卒業年次	全 日 制						合 計
	普 通 科						
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅	L ₆	
61	46	47	45	47	47	46	278
62	54	53	54	54	52		257
63	47	46	47	47	47	48	282
合 計	1914	1544	1285	1211	736	94	6774

学校・学科・卒業年次別担任・クラス委員一覧

高等学校は学制改革による、校名変更や学科名変更等により、複雑なクラスわけとなっております。

各クラス委員は、現在427のクラスがありますが、約80クラスの委員が決定していません。まだクラス委員の決定していないクラスの皆様は是非この機会にクラス委員を決定していただけるよう御協力お願い致します。

また、昭和57年より高等学校同窓会会則改訂により1クラス、2名のクラス委員となりました。現在は各クラスとも1名ですが2名へ移行できるようにお願い致します。

クラス委員は、クラスの各人と高等学校同窓会とのパイプ役であり、しいては校友会や高等学校との連携を密にするものであります。

これらも皆様の御協力があって成り立っているものです。

クラス委員の変更なども校友会まで御一報下されば幸いです。

表は次のように見て下さい。

24	吉田 宇一
	小竹 四郎

左図のように卒業年次の上段がクラス担任
下段がクラス委員となります。

卒業年次	電機第一工業学校				電機第二工業学校			
	第1本科		第2本科	併設中学	第1本科		第2本科	併設中学
	電気科	機械科	電気科		電気科	機械科	機械科	
	E	M	E	J	E	M	M	J
17			稲垣 忠雄					
			佐々嶋長治					
18	堤 良富		清水 明					
	渡辺 和正		豊田 健造					
19								
20	清水 明		清水 明					
	高野 新吉		池ヶ谷道夫					
21	清野 明夫		作道 兵次					
	倉持 悦久		中村 政雄					
22			服部 三郎			加藤 高治		
			粟屋 昭					
23	清水 明		吉田 宇一		磯部 直吉 原口 喜八 深海 登世 金森	早川 喜知	伊藤 克己	
	青木 仁		蛭間 恵治		木下 務			
24	清水 明	首藤 富家	吉田 宇一		原口 喜八	首藤 富家		
	中田 勇	常広 武雄	鈴木 治郎		戸井田 豊			

卒業 年次	定 員 委 任 時 制					
	電 気 科	機 械 科	電 気 科			
			電力課程		電 気 機 器 課 程	電 気 通 信 課 程
			E ₁	E ₂	M	C
24	吉田 宇一	伊藤 克己				
	小竹 四郎	横山 実				
25			服部 三郎	吉田 宇一		
			鈴木 治郎			
26			鈴木 徳三	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八
			荒井美喜男		小沢 位	
27			横田良次郎	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八
			駒形 昌雄			小林 建雄
28			河部 貞夫		首藤 富家	森田 恒久
			佐藤 守弘			
29			鈴木 徳三		首藤 富家	角田 秀夫
			関根 章		北風 康夫	森 真
30			河部 貞夫		横田良次郎	板垣 光夫
			宮田 利一		松本 和夫	菅野 敬弘
31			小針 藤男		首藤 富家	角田 秀夫
						大沢 和夫
32			河部 貞夫		大渡 正治	板垣 光夫
			茂木 実		吉川 洋	
33			小針 藤男		大渡 正治	角田 秀夫
			尾身 亀吉		与儀 正久	
34			角川 一治		小針 藤男	中島 輝夫
						椎津 利雄
35			角川 一治		大渡 正治	中島 輝夫
			高島 清淳			池田 恒男
36			桜井 松治		横田良次郎	中島 輝夫
			野村 力男			浜川 坦
37			杉野 良知		桜井 松治	横田良次郎
			石崎 泰司		黒田 忠治	宮城 一治
38			杉野 良知		下崎 和彦	大江 康男
			上倉 幸男		安藤 忠	中山 勇次
39			大江 康男		吉田 宇一	白川 守昭
						坂本 寛
40			吉田 宇一		下崎 和彦	松岡 三夫
41			見崎 正行		則友 克敏	長谷川裕一
						小杉 喜美

卒業 年次	定 員 委 任 時 制		
	電 気 科		電 子 科
	E ₁	E ₂	D
42	横 将	山崎 修快	鈴木 治郎
43	高久 広毅	人見 芳行	鈴木 治郎
	加賀 勉	厚谷 豊	井筒 幸二
44	鈴木 治郎		人見 芳行
	大石 四郎		
45	人見 芳行		鈴木 治郎
	金子 英司		
46	鈴木 治郎		鈴木 治郎
			石川 秋男

卒業 年次	全 日 制									
	電 気 科									
	電力課程			電 気 機 器 課 程		電 気 通 信 課 程		電 気 計 測 課 程		
	E ₁	E ₂	E ₃	E ₄	M ₁	M ₂	C ₁	C ₂	I	
25	高橋 源八	岩佐 徹			首藤 富家		角田 秀夫			
	中田 勇	戸井田 豊			常広 武雄		森山 満隆			
26	野口 茂	大江 康男	吉田 宇一	加藤 高治	佐藤 善慶		中島 輝夫			
	加藤 正樹			中島 政良	山川 保		早川 宏			
27	平野 三郎	大渡 正治	林 六郎		中沢(河)実	板垣 光夫	桜井 松治			
	新井 昭男	岩田 慶一	小島 輝一		今井 昇	横山 真一	野瀬 健一			
28	野口 茂	角田 秀夫			桜井悌二郎		鈴木 藤男			
	橋本 光男	青木 良造					渡辺 正行			
29	小西 吉孝	佐藤 善慶			中沢(河)実		中島 輝夫			伊藤 克己
		渡辺 勉					荻野 宏泰			尾島 崇弘
30	林 六郎	神庭 明			大渡 正治	吉田 宇一	桜井 松治			大江 康男
		石塚 武夫			小野 栄一		柴山 茂男			保坂 弘
31	杉野 良知	野口 茂			鈴木 徳三		吉田 孝俊	伏見栄治郎	伊藤 克己	
	原口 尚久						森 健輔	坂井 孝志	小長谷 登	
32	角川 一治	桜井悌二郎			中沢(河)実		中島 輝夫	寺尾 功吉	佐藤 善慶	
	倉林 純一						増田 克己	柳 博	松本 徳孝	
33	板垣 光夫	渡辺 明			吉田 宇一		桜井 松治	横田良次郎	大江 康男	
	飛田 偉靖				後藤 隆夫					
34	杉野 良知	鈴木 徳三			中沢(河)実		野口 茂	吉田 孝俊	伊藤 克己	
		高橋 清			松下 祐輔				中野 善夫	
35	佐藤 吉弥	吉田 宇一			鈴木 治郎		角田 秀夫	佐藤 善慶	大江 康男	
	北村 義明	名古屋 勲			鈴木 整司			見崎 正行	渡辺 黎一	
36	板垣 光夫				小針 藤男		佐藤 善慶	白井光太郎	伊藤 克己	
								日比野晴昌	藤田 安彦	
37	野口 茂				斉藤 広吉		大渡 正治	角田 秀夫	石川 孝志	
	荒井 義久						柳田 佳孝	横溝 邦彦		
38	大田 健	吉田 宇一			横山 実		鈴木 治郎		伊藤 克己	
	形屋 憲一	佐藤洋志郎					細田 勝久		鶴見 勝義	
39	中島 輝夫				小針 藤男		高木 正夫	白井光太郎	渡辺 太	
								三橋 慶二	渡辺 正行	
40	中村 広幸				斉藤 広吉		桜井 松治	菊地 諒	伊藤 克己	
								川村登志一	倉本 馨	

卒業 年次	全 日 制							
	電 気 科			電 子 科		機 械 科		工業計測科
	E ₁	E ₂	E ₃	D ₁	D ₂	M ₁	M ₂	I
41	大田 健	大田 健		角田 秀夫	鈴木 治郎	横山 実		中田 勇
	石附 正				印宮 登	渡辺 高幸		荘司 仁
42	松岡 三夫	加藤 栄治	宮崎 登	白川光太郎	川島 純一	伊藤 克己		大江 康男
	原 邦男		畑山 昭一	平賀 徹		川田 純		新山 恒夫
43	斉藤 成信	中村 広幸		桜井 松治	菊地 諒	斉藤 広吉		渡辺 太
		和田 真一		杉本 好造				
44	中村 隆一	中田 勇		高村 広昭	見崎 正行	横山 実		大江 康男
	赤川富美樹	山越 茂雄		花嶋 秀年	菊嶋 和則	岡田 和恭		由井 康雄
45	宮崎 登	加藤 栄治		白井光太郎	川島 純一	松岡 三夫	横山 実	
	酒井 明	岡本 清次		松村 雅之	小川 晴夫	小野 喜之	鳥飼 洋一	
46	大田 健	中村 広幸		白井光太郎	高村 広昭	石川 孝志	伊藤 克己	
	川本 敏	秋山 清隆		石橋 和夫		田畑 有三	阿部 俊	
47	鈴木 治郎	渡辺 太		見崎 正行	中村 隆一	大江 康男	山田 宏明	
	大橋富士人	山田 宏己		早坂 幸雄	持木 文男	谷田部 宏	船田 嘉章	
48	宮崎 登	加藤 栄治		松岡 三夫	川島 純一	大湯 幸夫	横山 実	
	山内 利夫	尾身 栄一		日野 一武	渡辺 敏章	林 達也	大羽 克己	
49	間辺幸三郎	高橋 源八		白井光太郎	大谷 稔	高村 広昭	中村 広幸	
		山口 孝博		高橋 康一	岡田 孝治		石塚 仁史	
50	高橋 源八	中村 隆一		見崎 正行	前嶋 万人	大湯 幸夫		
	高瀬 裕司	杉浦 義彦		大谷 茂	佐藤 仁	高瀬 勝義		
51	宮崎 登	鈴木 博		五十木基晴	大江 康男	横山 実		
	平井 広史	神田 庄一		柳川 守	吉田 邦男	池田 邦明		
52	間辺幸三郎	高村 広昭		菊地 諒	大谷 稔	横 将		
		大塚 徹		村上 裕一	前嶋 宏二	海川 次郎		
53	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	宮本 治	大湯 幸夫		
	後野 明仁	相川 次男		秋山 益満	清水 敏久	本間 昭伸		
54	宮崎 登	田上 光治		前嶋 万人	大谷 稔	横山 実		
	箱田 浩二	吉田 俊司		三輪 浩康	山際 康之	平澤 輝男		
55	松岡 三夫	津村 栄一		菊地 諒	高村 広昭	横 将		
	石井 和之	手塚 勝		山田 富夫	稲川 秀勝	小林 正一		
56	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	林 幸男	横山 実		
	鈴木 幸治	山崎 育昭		鈴木 昭広	新谷要次郎			
57	斉藤 広吉	則友 克敏		前嶋 万人	生熊 勝彦	山田 宏明		
	滝沢 聡	天野 裕一		平沢 一寿	今尾 裕	早坂 勝浩		
58	鈴木 治郎	津村 栄一		見崎 正行	人見 芳行	山路 雅一		
	福原 幸規	木村 武晴		山崎 誠人	富井 清隆	江部 智治		
59	鈴木 博	高村 広昭		向芝京京太	石川 孝志	横山 実		
	浅田 直樹	亀岡 和裕		大曾根康史	土屋 岳	鈴木 久郎		
60	在藤 和幸	星野 雅幸		松田 和哉	松本 岳	鈴木 正成		
	斉藤 広吉	大田 健		渡辺 太	前嶋 万人	小峯 龍男		
60	青沼 孝一	宮崎 佳之		安井 哲也	染野 明	猪鼻 一芳		
	深見 孝一	野本 浩		石井 俊一	笠木 孝夫	岩崎 道義		

卒業 年次	全 日 制						
	電 気 科		電 子 科		機 械 科	電子機械科	
	E ₁	E ₂	D ₁	D ₂	M ₁	M ₁	
61	津村 栄一	鈴木 治郎	見崎 正行	生熊 勝彦	宮本 治		
	中村 登	西井 光利	鳴島 浩	大和田 誠	新井 智也		
62	河又 信司	亀田 秀明	増喜 太郎	松下 慎一	山岸 岳人		
	斎藤 広吉	渡辺 太	中村 隆一	妹尾 敬	大湯 幸夫		
63	石田 亮	館澤 直紀	豊島 徹朗	寺島 大	村井 潤		
	近藤 大輔	木村 宏	田中 萬史	兒玉 泰輝	山本 克郎		
63	大田 健	川口 純	前嶋 万人	五十木基晴		小輩 龍男	
	藤本 賢司	石田 晋也	星野 信幸	川勝 真喜		佐藤 秀明	
63	村田 周也	石山 隆	星野 信幸	川勝 真喜		佐藤 秀明	

同窓会の

昭和62年度 事業報告

事業種別	日時・場所・内容	出席者等
総 会	昭和62年6月27日(土) 於：小石川校舎実演室 ○懇親会 於：後楽園会館	会 員 65名 来 賓 15名 教職員 25名
同窓会誌の発行	同窓会誌「朋友」1987年版の発行(昭和62年6月27日) クラス委員名簿第11回改訂版を含む	
教職員・クラス委員懇談会	昭和62年10月10日(土) 於：後楽園函徳亭 ○卒業生招待会(ホームカミング)等について討議 ○クラス会の開催状況等について討議	教職員 16名 クラス委員 4名 幹 事 12名
新会員説明会	昭和63年3月9日(水) 於：小石川校舎体育館 ○新会員に高等学校同窓会の現状説明	終業式場にて
新クラス委員懇談会	昭和63年3月9日(水) 於：小石川校舎実演室 ○新クラス委員となる人と幹事の懇談会 ○高等学校同窓会への積極的参加要請	教職員 6名 新クラス委員 19名 幹 事 6名
卒業記念品の贈呈	昭和63年3月11日(金) 於：九段会館 卒業式 ○証書採み・南部鉄製型控抜	卒業式に印宮同窓会長、池ヶ谷幹事参列
クラス委員名簿の整備	昭和62年5月委嘱状と承諾書の発送回収	
クラス会開催の補助	クラス会を開催するクラスに補助金として5,000円を支給	43クラス
準会員活動奨励	昭和62年11月4日 ○電高祭優秀展示作品奨励 優秀賞:1部門、奨励賞:8部門	
準会員活動援助(校友会準会員事業基金の運用)	昭和62年9月30日(水) 於：小石川運動場 ○体育祭のクラス別対抗表彰・全員に参加賞の配付	印宮同窓会長参列
	昭和63年2月15日(月) 於：江戸川区文化センター ○第9回文化講演会「音楽と生活」作曲家：中田喜直先生 ○中田喜直作品集「サイタル」声楽家：丹羽勝海先生	印宮同窓会長、谷沢参与、池ヶ谷幹事参列
卒業生招待会の協力	昭和63年3月9日(水) 於：小石川校舎体育館 終業式場にて ○クラブ活動優秀者の表彰	印宮同窓会長参列
	昭和62年11月14日(土) 於：後楽園会館 ○第2回卒業生招待会(ホームカミング)の協力(昭和31年～昭和40年迄の卒業生)	来 賓 28名 卒業生 161名

高 等 学 校

名誉会長 宮 崎 登
会 長 印 宮 登
副会長 見 崎 正 行
" 須 賀 寛 光

62・63年度役員

職 務	氏 名	卒年	居住地
幹 事	佐々嶋 長 治	17	北 区
"	安 田 正 男	18	北 区
"	池ヶ谷 道 夫	20	市 川 市
"	清 水 岩 生	20	世田谷区
"	海老原 宮 一	23	浦 和 市
"	中 村 広 幸	24	市 川 市
"	北 風 康 夫	29	大 田 区
"	間 川 清 太 郎	29	飯 能 市
"	見 崎 正 行	35	秦 野 市
"	萩 原 宏 芳	35	川 口 市
"	石 崎 泰 司	37	江 戸 川 区
"	渡 辺 敏 章	48	北 葛 飾 郡
"	須 賀 寛 光	49	越 谷 市
"	山 口 孝 博	49	町 田 市
会計監査	加 藤 栄 治	30	川 越 市

昭和62年度決算報告 自 昭和62年4月1日 至 昭和63年3月31日

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
入 会 金 519名×3,600円	1,868,400	事 業 費	1,807,090
補 助 金	47,130	総 会 費	654,970
利子・配当金	352,201	教職員・クラス委員懇談会費	224,600
雑 収 入	95,000	クラス会補助金	215,000
		卒業記念品費	160,000
		同窓会誌製作発行費	499,520
		準会員活動奨励費	53,000
		会 議 費	140,730
		事務通信費	36,770
		諸 費	90,000
		基本財産繰入 (中期国債ファンド購入)	300,000
小 計	2,362,731	小 計	2,374,590
前期繰越金	195,150	次期繰越金	183,291
合 計	2,557,881	合 計	2,557,881

活動報告

昭和63年度 事業計画 (案)

事業種別	内 容	日 時
総 会	於：小石川校舎実演室(総会) 後楽園会館(懇親会) 1. 昭和62年度事業報告、決算報告、会計監査報告並びに承認 2. 昭和63年度事業計画案、予算案の審議並びに承認 3. 役員改選 4. その他	昭和63年 6月25日(土)
同窓会誌「朋友」の発行	同窓会誌「朋友」1988年版の製作・発行 クラス委員名簿第12回改訂版を含む	昭和63年6月
クラス委員の委嘱	クラス委員に委嘱状と承諾書の発送・回収	昭和63年5月
教職員・クラス委員懇談会	教職員・クラス委員と諸事項について協議及び懇談 同窓会・高等学校後援会・校友会への支援要請	昭和63年10月
新会員説明会	新卒業生に高等学校同窓会の現状説明	昭和64年3月 終業式場にて
新クラス委員懇談会	新クラス委員となる人と幹事の懇談会 高等学校同窓会への積極的参加要請	昭和64年3月 終業式後
卒業記念品の贈呈	証書採み・南部鉄製型控抜 校友会と共催	昭和64年3月 卒業式
クラス会開催の補助	クラス会を開催するクラスに補助金として5,000円を支給(他に校友会より10,000円と、往復ハガキ代(通信費)、学校法人より5,000円が支給されます。)	随 時
準会員活動奨励	電高祭優秀展示作品の奨励 クラブ活動の奨励	
準会員活動援助	体育祭・文化講演会・クラブ活動等の活動援助 (校友会準会員事業基金の運用)	
卒業生招待会の協力	卒業生招待会(ホームカミング)の協力	
卒業生名簿作成の協力	校友会高等学校卒業生名簿作成への協力	

同 窓 会 役 員

参与 鷺 見 篤 23年卒
" 谷 沢 正 一 郎 23 "
" 野 瀬 健 一 27 "
" 加 藤 康 太 郎 29 "
" 賀 張 雅 弘 31 "

63・64年度役員(案)

職 務	氏 名	卒年	居住地
幹 事	豊 田 健 造	18	小 平 市
"	阿久津 功	23	市 川 市
"	今 田 正	24	武 蔵 野 市
"	鈴 木 治 郎	24	新 座 市
"	宇 野 敬 助	27	柏 市
"	柴 山 茂 男	30	横 浜 市
"	小長谷 登	31	横 浜 市
"	松 下 祐 輔	34	朝 霞 市
"	日比野 靖 昌	36	文 京 区
"	大 塚 忠 克	39	浦 安 市
"	北 尾 義 弘	40	相 模 原 市
"	印 宮 登	41	江 戸 川 区
"	向 芝 京 太	48	新 座 市
"	平 野 修 一	49	越 谷 市
"	古 城 仁 樹	50	川 崎 市
"	鈴 木 元 樹	54	市 川 市
会計監査	横 山 真 一	27	船 橋 市

財 産 目 録 昭和63年3月31日現在

項 目	内 容	金 額
基本財産(1)	東京電力社債	3,000,000
基本財産(2)	中期国債ファンド	1,700,000

昭和63年度予算(案) 自 昭和63年4月1日 至 昭和64年3月31日

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
入 会 金 528名×3,600円	1,900,800	事 業 費	2,130,000
補 助 金	20,000	総 会 費	800,000
利子・配当金	300,000	教職員・クラス委員懇談会費	250,000
雑 収 入	100,000	クラス会補助金	250,000
		卒業記念品費	170,000
		同窓会誌製作発行費	550,000
		新クラス委員懇談会費	10,000
		準会員活動奨励費	100,000
		会 議 費	150,000
		事務通信費	80,000
		諸 費	100,000
		備 費	44,091
小 計	2,320,800	小 計	2,504,091
前期繰越金	183,291	次期繰越金	0
合 計	2,504,091	合 計	2,504,091

クラス会お祝金について

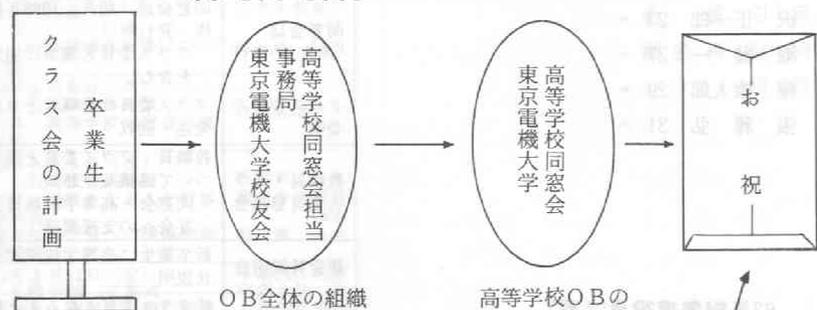
同窓会あるいは校友会が発展する基礎は、クラス会が活発におこなわれることだといわれています。高等学校同窓会においても、卒業生の母校に関連する活動を支援するものとして、クラス会を開く方々へお祝金という形をとって、ささやかですが御協力をさせていただいております。

同窓会の上部団体である(社)東京電機大学校友会でも、同様な主旨のもとにお祝金を支出しておりますが、これは校友会が発行する「卒業生名簿」について、住所勤務先、電話など、名簿の改訂整備のデータを得るためという側面を有しております。

03-294-1551

【お祝金のフロー】

計画をたてたら校友会の担当者へ連絡して下さい。



1. 校友会事務局への連絡

まず開催日の1週間前までに校友会事務局の高等学校同窓会担当者へ連絡して下さい。電話でけっこうです。

必要な内容は、卒業年次・科名、開催日・場所・時間幹事氏名と連絡先、クラスの人数そして先生を招待する場合はお名前などです。細かい点は担当者が御相談いたします。

2. お祝金のフロー

お祝金についての情報は、高等学校同窓会の部分を重点として描くと略図のようになります。

先生が出席される場合は、校友会から学校法人東京電機大学へ連絡され、お祝金が支出されます。当然のことですが、校友会においても同様な処理がおこなわれます。(但し、先生の出席の有無にかかわらず、お祝金は支給されます)

なお、補助的なものとして、クラス会の連絡用ハガキの交付もなされます。

- ① 学校法人 東京電機大学
- ② 社団法人 東京電機大学校友会
- ③ 郵送料補助金 (校友会)

お祝金の支給状況 (件)

昭和53年	34	昭和58年	24
54	33	59	21
55	23	60	37
56	25	61	37
57	40	62	43

【お祝金々額】

高等学校同窓会	5,000円
東京電機大学	5,000円
東京電機大学校友会	10,000円

*お願い

クラスの住所録を必ず校友会へお送り下さい。

名簿の整備・校友会案内

同窓会が充実しているかどうかは、その名簿を見ればわかるといわれています。名簿の充実している会は、その活動も活発です。

本会の名簿は、63年度版を発行致します。

1. 原簿の整備

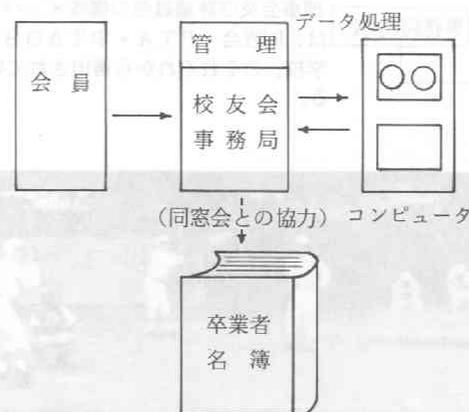
本会の会員名簿の原簿はデータ処理を迅速、かつ、正確に行うためコンピュータによって処理されています。同窓会は会員の皆様から住所、勤務先などの変更届が出されると、直ちに原簿であるマスターテープを修正し、つねに最新のデータが格納されるよう努めています。

住所・勤務先 その他に変更がありましたら、必ず校友会に御一報願います。また同様に、知人、友人につきましても現在発行している名簿より、変更されていまして、校友会に御連絡下さい。

東京都千代田区神田錦町1-4
東京電機大学校友会内 高校卒業生名簿係
TEL 03-294-1551 (内線5550)

2. 名簿の頒布

63年度版同窓会名簿を購入御希望の方は、代金2,500円を添えて現金書留でお申し込み下さい。



校友会費を納めましょう!

高校同窓会の行事や学園の近況などは工学情報に記載されます。お手元に届いていない方は、下記のとおりお申し込み下さい。また、クラス会開催の場合、祝い金等の制度もありますので名簿編さん(住所・勤務先)とも併せてご協力くださいませようお願いします。

記

- 1年分会費 2,000円
- 3年分会費 6,000円
- 5年分会費 10,000円
- 終身会費 60,000円

(会費には工学情報講読料が含まれています。)

◎ 納入方法

1. 郵便振替
2. 現金書留
3. 銀行口座自動引落制度

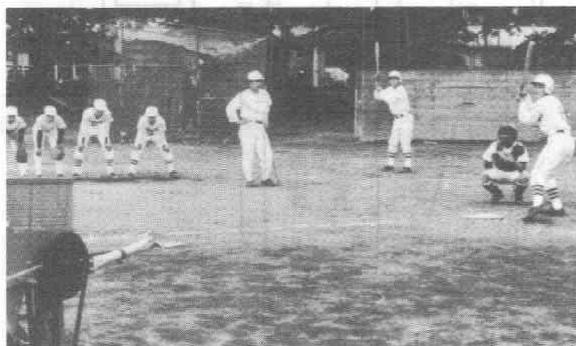
校友会は、皆様からの会費によって運営されております。財政的な基盤が確立していなければ十分な校友会活動もできません。ぜひとも多数の卒業生に会員になっていただき、校友会並びに母校の発展充実に一段のご支援をお願い申し上げます。

後援会活動

高校後援会は昭和54年12月、学校、同窓会、PTA、およびPTA・OB等各意の努力と熱意により発足し、会員の募集等を行い具体的活動に入り満8年を数えるに至りました。クラブ活動の援助として現在は運動場への

車代等にすぎませんが、昨年よりは今年、今年よりは来年と、すこしでも生徒の活力を増大するため努めて行きたいと考えて居ります。現在後援会の組織図は下記のとおりです。

〔後援会組織図〕



*今後の後援会活動を活発にする為に機会をとらえ下記趣旨の入会即進のお願いもいたして居ります。1人でも多く会員への参加勧誘をお願いいたします。

「後援会入会のお願い」

新緑の候 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃 東京電機大学高等学校の教育につきましては格別のご理解を賜り衷心より御礼申し上げます。ご存知のように、学校ではかねてより生徒の人格形成と体力の増進を目指し指導をされております。その重要な一つの方策として課外の部活動に力を入れておられますが、先生方の丹精なご指導で着実にその成果をあげられ、最近、特にいくつかの運動部で目ざましい進歩が見られ、全国大会もあと一歩という所までこぎつけておられますことはご同慶の至りに存じます。

然しながら、本校の課外活動についての環境は必ずしも恵まれたものとはいえない状況で、学校もPTAも現在出来る限りの援助をされておられますが、それにも自ずと限度もあり、顧問の先生方や生徒諸君もかなりの出費を余儀なくされた状況で練習や試合に参加しているのが現状であります。

そこで、せめてその経済的な側面だけでもお力になりたいという気持ちから、学校のご諒解を得まして、去

る54年12月5日に東京電機大学高等学校後援会が設立されました。

つきましては皆様方にも是非、この趣旨にご賛同をいただき一人でも多くご加入をいただき一日も早く生徒諸君の経済的な負担を軽くし、クラブ活動に専念していただける日の実現を期して力を合わせて参りたいと存じます。1人1人の力はたとえ小さくとも結集すれば大きな力になります。そしてそれがやがては学校を支える強い力になることを確信いたします。

何卒各位のご協力とご理解を賜り後援会に入会していただきますようお願い申し上げます。

昭和63年6月

東京電機大学高等学校後援会
会長 池ヶ谷道夫

有志各位 殿

● 編集後記 ●

今年もまた皆様にご挨拶する時期になりました。編集委員の思いは、この朋友を通じて同窓生の絆が一層深まれば、という点に尽きます。しかし、そういう願いの一方で、切に追われながらやっと発行に漕ぎつけたというのが実情です。多忙であることは、かならずしも充実を意味しませんから、色々不備な点もあろうかと思ひます。皆様の御批判をおおぎたいところです。

なお、昨年来卒業年次別担任名について、一部不備である旨のご指摘を受けましたが、現在調査中であることをご報告いたします。

また、原稿執筆に御協力をいただきました方々には、この場をかりて厚くお礼いたします。

〔編集担当〕 鷺見 篤・柴山茂男・石崎泰司

向芝京太・渡辺敏章・須賀寛光

昭和63年6月25日 発行 (非売品)

〔編集兼発行所〕

東京電機大学高等学校同窓会
住所：東京都千代田区神田錦町1の4
東京電機大学校友会内
電話：03-294-1551 (代)

東京電機大学高等学校
住所：東京都文京区後楽1-7-26
電話：03 (813) 6911 (代)

東京電機大学高等学校校歌

土岐善麿 作詞
信時 鷹 潔 作曲

力強く ♩ = 約104



一、都心の天地は高くひろく

かがやき集る時代の文化

科学と技術の上に立ちて

真理を仰げば富士に雲なく

勤労の道に希望あり

二、創意の火花は潔くさえて

平和のいとなみ昼夜絶えず

社会の進歩を共に享けて

静かにたどれば回路正しく

新たなる世界開けたり

三、歴史に栄ゆる電機学園

高校我等の負ひゆく使命

親愛ひとしく競ふ意気に

相呼び相寄る自治のよるこび

協同の歩み力あり